

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひぐらし
(ユニット名)	まさやん家
所在地 (県・市町村名)	三重県南牟婁郡御浜町大字神木23
記入者名 (管理者)	山本 香代子
記入日	平成 20 年 8 月 1 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は重点項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住みなれた地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を事業所の理念としている	○	積み重ねてきた知識と経験が在宅に活かせるように地域に向けて活発に活動行う
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の勉強会や申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に触れ、確認し合うようにしている	○	全ての職員がホームの運営理念を述べるができるように取り組んでいる
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、訪問時や家族会等折に触れ伝えている。又、地域住民には、ホーム見学の場面で分かりやすく説明している	○	理念や方針をリビングに掲示している
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝の散歩や買い物に出かけた時には、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。又、今年の春から近隣の人の土地を借りて畑を作っている	○	忘れ物等があれば届けてくれる等の付き合いができています
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や夏祭り、歌謡ショー等には利用者と共に積極的に参加している	○	事業所には、地区の方がボランティアとして活動して来てくれる等、地域との交流がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区住民を対象に、随時地域の方々から認知症の相談も受けるようにしている。又夏祭り際には介護相談の場を設定しアンケートも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員全体が理解し、評価が活かされたサービスを提供できるよう、ケース検討会や毎月1回の全体会議で話し合っている	○	自己評価は項目の点検のしやすい項目から行う
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度第1回、運営推進会議を開催した。現入居者の状況、20年度事業計画等の報告・話し合いを行った	○	今後、会議により取り組み状況を知ってもらい、地域に情報を配信して頂ける様にする
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1名の入居者が社協権利擁護を利用し毎月来訪していただき生活の事を相談している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会に職員が参加し、学ぶ機会を持った	○	地域福祉権利擁護事業のパンフレットを事務所に設置している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、常に虐待が見過されることがないように注意をしている。法人全体での研修会に職員が参加し、学ぶ機会を持った	○	虐待行為を発見した場合の対応方法については、事業所で周知徹底がされている

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項書に基づいて説明を行い、承諾していただいている	○ 重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際についても詳しく説明し、同意を得ている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。評議員に家族の方から代表を選び、意見を運営に反映できるようにしている	○ 利用者の不安、意見等はユニットで話し合いし、日々のケアに活かしていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌により、年4回報告を行っている。金銭管理は、使途の確認や金銭出納帳を明示し報告を行っている	○ 健康状態に変化がある場合、その都度、家族に電話にて連絡している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族同士で話し合ってもらい機会を作り、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している(年1回、家族の会として食事を兼ねての交流を行っている)	○ 法人の評議員に家族代表で参加してもらっている。敬老会やクリスマス会で家族との意見交換を行っている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。毎月1回、全員が参加しての勉強会を行い、運営方針や意見の交換会を行っている	○ ケース検討会において反映している
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者一人一人に対して、柔軟な対応が出来るように、ローテーションを組んでいる。又、その都度必要に応じて、柔軟に職員の配置をしている	○ 緊急に病院へ入院になった場合でも、家族が病院へ到着するまで、利用者につき添ったり等、柔軟な対応ができていく
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動や新しく職員が入った場合でも、入居者に安心していただくために自己紹介をしてもらっている	○ 異動や離職でやむを得ない場合は、引継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるようにしていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行う勉強会が開催されており、研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている	○ 日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として研修に参加する機会を作っていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G.H協議会により、研修会に参加している。スタッフ研修を受けて質の向上に励んでいる	○ 外部からの講師を依頼しての研修会に、他のグループホームにも声をかけ参加していただいた
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。年1回、職員だけの食事会にて意見交換を行っている	○ 職員が利用者と離れ、一息入れる休憩の時間や居場所について配慮していく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている	○ 法人全体で資格取得に向けた勉強会を行っている
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の訴えには、職員が1対1で関わり、本人に納得していただけるまで話を聞き、職員に対して信頼していただける関係づくりに努めている	○ 入居時には、信頼関係を築いていくため、職員を紹介し、関係を作っていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでに、これまでの家族の疲労や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている	○ 利用者だけでなく、ご家族の不安、求めていることをよく聞き、受け止めていくことが大切である

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は相談があったときは、出来る限り対応に応じ、他のサービスが必要な場合、「他の機関」などに相談し対応している	○ サービスが途切れることのないように他の機関に相談している
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの生活歴、生活習慣をケアプランの中に活かし、一人一人の生活リズムを大切にしている	○ 利用者の得意とする事を中心に生活できるように考慮し取り組んでいる
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員全員が共有している。普段から利用者に教えてもらう場面も多く、職員の年齢層にも考慮している	○ 梅干しや味噌作り等、利用者から職員が教えてもらっている。又、行事食の作り方等も教わることが多い
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じ想いで支援している	○ 職員も家族の一員としての役割を持ちながら、本人を支えている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃的生活状態をこまめに報告、相談すると共に、家族の近くへ食事に行く時など、家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている	○ 家族訪問時には、必ず本人を交え、日々の出来事をお話している。又、家族をお誘いし、1泊旅行を計画している
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理髪店に行き続けている利用者や、毎月、家族と共に墓参りを続けている利用者があり、一人一人の生活習慣を大事にしている	○ 地域との関わりの中で、馴染みの関係が継続されている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や、食事の準備や食事時は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、気の合う者同士で過ごせる場面作りをするなど、利用者同士の関係がうまくいくようにスタッフが支援している	○ 9人の利用者が家族になっており、姿が見えないと、お互いを心配する場面が見られる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所(併設している施設)へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、事業所の方にも来てもらったりしている	○	関わりを必要とされる利用者には、今後も付き合いを大切にしたい
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や知人などから情報を得るようにしている	○	意見疎通が困難な方には、得た情報を基に、必ず家族から確認を取る
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の日常の会話、家族、知人等の訪問時などに、聞き取りにより把握に努めている	○	本人や家族より、知り得た事をアセスメントに記入している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人一人の生活リズムで生活していただき、できないことよりできることを大切にし、自立支援に向けた暮らしになるよう努めている	○	在宅で日課として行っていたことを続けていけるように、個別に対応している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、スタッフ全員で話し合いをし、介護計画の作成に活かしている	○	ケース検討会の中で、職員全員が意見を出しながら、本人や家族の要望を活かしながら介護計画の作成をしている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース検討会で介護計画を照らし合わせて、状況を取り入れ、状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている	○	特に骨折などにより、退院後、介護計画の見直しを行っている。ADLの状態の変化、その他の状況に応じて、見直しが必要な場合、計画を作成し直している。その都度、家族より了承していただく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別にファイルし、身体的状況および排泄などを記録し、いつでも全ての職員が確認できるようにしている	○	家族より要望があれば、ケース記録を開示するようにしている
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援は職員が柔軟に対応している	○	事前に受診が決まっている時は、家族に連絡し、要望をお聞きしている
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、消防・警察・公民館等、地域の資源を活用できるように、普段から連携を取っている	○	催し事を通じて、各関係機関に連絡し、協力の下、利用者への支援を行っている
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設されている施設や事業所がある為他のサービスの利用はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居していた時点で、権利擁護を利用し入居している。入居者に地域包括支援センターの対象はいない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行っている	○	入所時に、本人・家族とよく相談している



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>今までかかっていなかったが、認知症が悪化し、不穏等が見られた時、食事の低下が見られた時に専門員の助言をもらった</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>看護職員による利用者の健康管理を行っている</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>家族や本人の意向を聞きながら、早期退院できるように、医療機関との連携に努めている</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>本人や家族、かかりつけ医、職員とで、十分な話し合いを行って関わっている</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家族や本人の意向を大切に、十分な話し合いをし取り組んでいる</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>退所時には、情報提供し、今後の生活が継続していけるように心がけている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の誓訳に基づいて、日々関わっている	○ 言葉かけについては、法人全体で使ってはいけない言葉、言いかえる言葉の例を作成している
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望に合わせて入浴をしてもらったり、外食では、メニューを見て食事を決めていただく	○ 本人が自己決定された事を大切に、実現に向けて取り込んでいる
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら生活していただく。外出の好きな人なら、本人のペースに合わせて納得いくまで付き合う	○ その日の体調を見ながら、本人のペースに合わせている
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人主体で身だしなみを整えられるよう、職員は準備をしたり、不十分なところや、乱れは、さりげなく直している。又、本人の馴染みの床屋や美容院に行き、希望に合わせたカットをしてもらっている	○ 衣類についても、その人らしいおしゃれができるように外出できる人は、職員と一緒に買い物に出かけ、自分で選んでもらっている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から、盛り付け・配膳・片付けを職員と一緒にやっている	○ 食事を作ることが好きな人、後片付けをすることの好きな人等、それぞれの得意なことを手伝ってもらっている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	スタッフは、一人一人の嗜好物を理解しており、本人の様子や時間を見ながら、それらを楽しめるように支援している。又、お酒の好きな利用者は、夕食時に楽しめるようにしている	○ 在宅に居るときと変わらない生活が継続されている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	トイレでの排泄を可能にすることで、気持ちよく過してもらえるように支援している
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	本人の希望に合わせ、特に時間帯を定めない。利用者によって関わる職員にも配慮している
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	昼間はできるだけ体を動かしていただくように支援し、夜間は休息に向けて、安眠できるように気を配っている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	利用者の出来る事を職員が理解しているので、その場面に応じ、役割を持ってもらっている
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	○	お金を持っていないと不安を訴える利用者もいるので、家族と相談して、その方法を決めている
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	社会との関わりを持ち続けるためにも、個別に対応している
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	実現に向けて、外出できる場所を増やしていくようにしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や電話を心待ちにしている気持ちを察し、電話をしていただけるよう家族にお願いする等の支援をしている	○	荷物が届いた時は、本人からもお礼の電話をかけるようにしている
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつも明るく歓迎の雰囲気でお客様を迎えられるよう職員を指導し、面会は居室でゆっくり出来るよう気を配っている	○	お客様が気軽に訪問できるように、笑顔で迎えられるように努めている
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室の鍵も含め、目に見える身体的拘束は一切行っていない。又、言葉による拘束にも充分注意している	○	法人全体が、使ってはいけない言葉と言いかえる言葉等の事例集を使って言葉の拘束解消に取り組んでいる
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室に鍵をかけることは、全くなく、利用者が外出しそうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていく等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている	○	常に利用者の安全に配慮しながら、自由な暮らしに向けて取り組んでいる
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員が、利用者を見守りやすい位置にいて、利用者の様子を察知できるようにしている。職員は何をしても常に目のすみで利用者の動きが追えるよう指導されており、夜間も当直者との協力体制がとれている	○	昼夜に応じた声掛けをし、出しゃばらないようにしながら、安全対策を怠らないようにしている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく厳重に保管すべきもの、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理している	○	物によっては、目線を変えるだけで十分な物もあるので、日頃よりその保管方法について話し合っている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練、救急救命訓練等に参加し、知識を学んでいる。一人一人の状態から予測される危険を察知し、事故を未然に防ぐため、法人全体の研修に参加し、知識習得に努めている	○	リスクマネジメントをし、その対策を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当や、蘇生術の研修を実施し、利用者の急変や事故発生時に対応できるようにしている	○ 全ての職員が研修を実施している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、消火器の使い方等の訓練を消防署の協力を経て、定期的に行っている。又、地域の主催する防災訓練や防災網へも参加しお互いの協力関係を築く努力をしている	○ 地域へは、災害時には常に協力が得られるように働きかけている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出により、リスクが高くなるものの、抑制感のない暮らしぶりをご家族に見てもらったりして、具体的に説明をしている。契約時にグループホームの方針内容を十分に説明し、リスクの高い利用者に対しては、その都度、家族に説明している	○ 利用者の生活ぶりを見ていただきながら、リスクについての説明をしている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、管理者に報告すると共に、職員間で共有し、対応にあたっている	○ 毎日バイタルチェックをしながら、普段の様子を記録に留めている
74	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、又は介助し、きちんと服用できているかの確認をしている	○ 薬については、その内容を把握し、法人の研修会等へも参加している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や乳製品を取り入れており、散歩等、身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる	○ ケース検討会に於いて、予防に向けて話し合い、個々に応じた方法を取り入れている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている	○ 口腔清潔を重視し、口腔内の細菌による感染防止に力を入れている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>栄養については、法人の栄養士によりカロリー計算されている。水分量が不足がちな人には、少量ずつでも、こまめに摂ってもらうように援助している</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	○	<p>マニュアルに沿った感染症対策を実施している</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	○	<p>食材は、毎日新鮮なものを業者より購入し、使用している</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	○	<p>自動ドアのスイッチを切り、入りやすい雰囲気を出している。又、季節の草花を絶やさないようにしている</p>
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>共同の場所については、利用者の意見を聞きながら、使い勝手のよい空間作りをしている</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	○	<p>リビングや居室で、それぞれ自主性を大切にしたい方をしている</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや椅子、その他にも使い慣れた日用品を部屋に置いてあり、安心して過ごせるような配慮をしている	○	入所時には、本人や家族と相談し、馴染みの物を置いてもらうようにしている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えを常に行っている 外気温との大きな差がないように配慮し、入居者状況に応じて調節している	○	なるべく自然の状態に近いようにしながら、温度調節を行っている
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すり・浴室・トイレ・廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保をし、自立への配慮をしている	○	手すりから手すりの間が離れている場所については、安定した家具を配置し、自然と手を添えて移動できるように工夫している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人その人の能力に応じ、できる事・できない事を職員が理解し、毎日の生活の中で援助している	○	アセスメントを通じ情報を収集し、日々の生活で出来る事を大切にしている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている	○	畑で採れた作物は、食事の材料として利用し、その話題を作り楽しみを持ってもらえる様にしている

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族との交流を大切にし、入居者お一人お一人に職員が1対1で関わられるよう、外出や買い物等に力を入れている。